


クラス番号	347	担当教員名	斉藤 雅茂
		他専修学生受入上限人数	2名
テーマ	社会福祉調査に基づいてエイジ・フレンドリーな社会を考える		
著書・論文	斉藤雅茂 (2023) 「〔特集：社会的孤立とリハビリテーション〕「通いの場」を通じた社会的孤立の軽減・予防効果」『総合リハビリテーション』51(6): 633-637 斉藤雅茂 (2022) 「地域づくりによる高齢者の社会的孤立軽減の可能性」『Geriatric medicine (老年医学)』60(8): 679-682, ライフサイエンス社 斉藤雅茂 (2022) 「日本の社会的孤立・孤独の動向」『月刊福祉』105(2): 20-24 斉藤雅茂ほか (2021) 「要支援・要介護リスク評価尺度得点によるその後の累積介護費用の相違」『日本公衆衛生雑誌』68 (11): 743-752 など		
研究課題等			

## ゼミナール概要

キーワード：社会的孤立・孤立死、認知症、健康格差、8050問題、地域づくり、啓発、ソーシャルキャピタル  
 専門領域) 高齢者福祉、地域福祉、社会老年学、公衆衛生学、社会疫学、社会福祉調査

### 目的、内容、方法等：

私たちも、私たちの身の回りの人たちもいつかは高齢者になります。高齢期の生活課題は「介護」だけではありません。高齢期の健康や幸せ、高齢者や認知症に優しい地域 (Age-friendly and dementia friendly communities) を考えることは、私たちの将来の暮らしを考えることでもあります。また、昨今、社会福祉分野でも科学的根拠に基づく実践やケアが求められ、「研究力」が益々必要になっています。本ゼミでは、既存の調査研究の動向を確認しつつ、フィールドワークや関係機関へのヒアリングなどを通じて、多面的に高齢期および超高齢社会の諸課題の所在や背景要因を把握できることを目指します。可能であれば、地域の関係機関と連携して対策にむけた一歩を試みていきたいと思えます。卒業論文で統計解析に挑戦したいという方には個別にサポートしますのでご安心下さい (3年前期に開講される「社会福祉データの解析入門」の履修もぜひご検討下さい)。例年、春休みには卒業研究の中間報告会を行っています。フィールドワークやゲスト講師、卒業生や大学院生との交流会についてはメンバーの希望に合わせて調整しています (2023年度は裁判傍聴や認知症カフェでのイベント実施、社協事務局長へのヒアリングなどを実施しました)。また、本ゼミでは社会福祉士受験者の全員合格を目指して卒業論文は計画的に進め、4年次にはサブゼミという形で授業後に自主学習会を開催しています。

### 授業計画：

- － 3年前期には、私たちが暮らしている社会を見つめ直せるよう、公的な統計 (厚生労働白書や高齢社会白書など) や、内閣府の孤立・孤独調査報告、全国社会福祉協議会の各種調査報告書の輪読を行っています。並行して、それらの具体的な姿を把握するために、フィールドワークやヒアリングも行います。これらを踏まえて、レポートおよび卒業研究計画書にまとめます。レポートの書き方に関する演習も行います。
- － 3年後期には、卒業論文で取り組む課題 (問い) を焦点化し、個別指導とグループワークを通じて、卒業論文の執筆構想に関する議論を重ねていきます。SW実習と重なるため、参加メンバーの希望に合わせて適宜演習内容は調整しています (統計解析入門、調査票作成体験、書籍輪読など)。
- － 4年次は主に執筆中の卒業論文をピアレビューし、お互いに課題を確認していきます。就職活動や公務員試験など他の予定をあらかじめ予測して、計画的に取り組めるよう指導しています。たとえば、国家試験を控えている人には例年、前期中 (8月末まで) に卒業論文の完成を目指して進めています。

## 担当教員からのメッセージ



ゼミとは学生たちでつくる「研究会」のようなもので、主役はあくまでも皆さんです。皆さんが主体的に提案し、協力し合えるとともに充実したゼミになります (私も全力で伴走します)。そのためにも、ゼミでは皆さんの「強み」を大切にしてください。卒業研究を通じて、自ら問いを立てて探求して何かを発見し、発信することの「楽しさ・歓び」を味わってもらえたら嬉しいです。3年生になるとSW実習、国家試験対策、就職活動、卒業論文と盛りだくさんで心配もあるかもしれませんが、お互いに支え合いながら一緒に乗り越えていきましょう！